

## 第34回 関東地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時 令和7年12月8日（月）15：30～18：00
2. 場所 さいたま新都心合同庁舎2号館14階 災害対策本部室
3. 出席委員 清水委員長、石井委員、伊藤委員、小笠原委員、久保委員、鈴木委員、関委員、玉井委員、平林委員
4. 議事・荒川調節池総合開発施設、武蔵水路、二瀬ダム、浦山ダム、滝沢ダム定期報告の審議  
・霞ヶ浦導水モニタリング委員会の設置について報告
5. 審議結果  
5施設の定期報告について了承された。
6. 主な意見
  - 1) 荒川調節池総合開発施設定期報告について  
(委員) 浄化施設について、荒川水循環センターの高度処理の状況を踏まえ、施設の在り方など必要性も含めた今後の方針について検討頂きたい。  
  
(委員) ビオトープの維持管理は重要であることから、ビオトープの水枯れ改善対策を実施してほしい。
  - 2) 武蔵水路定期報告について  
(委員) 武蔵水路の効果について、関係機関と連携してピーアールを行うと良い。
  - 3) 二瀬ダム定期報告について  
(委員) 令和3～6年で洪水調節1回の実績のため、ダム操作等の訓練が非常に大切であるため、引き続き実施されたい。  
  
(委員) 平成29年以降に渇水が発生していないが、ダムがなければ渇水が起きていたかもしれないことをアピールしたほうが良い。また、ダムの特徴（重力式アーチコンクリートダム）や防災教育、環境教育など関係機関と連携してピーアールを行うと良い。
  - 4) 浦山ダム定期報告について  
(委員) 堆砂の進行が計画に対して速いため、積極的に減らすことを考えた方が良い。
  - 5) 滝沢ダム定期報告について  
(委員) クマタカの猛禽類調査を令和7年度に終了し、本調査結果を踏まえて河川水辺の国勢調査（鳥類調査）に移行する際、調査方法等を学識者の助言を受けながら検討する。（浦山ダムも同様。）